

あとがき

昭和60年、特殊橋基準研究分科会の活動開始に当たり本分科会のテーマを何にするか会員で議論した。その結果、昨今、世間で注目されている新交通・モノレールに的がしぼられた。その理由としては各自治体を中心として都市基盤整備が進む中にあり、都市交通のインフラとして、新交通、モノレール事業が活発に展開されているが、その中で大きな問題として統一された指針がない事が挙げられる。そこで当研究会ではこの点に着目し研究を行う事となった。

最初の2ケ年（昭和60、61年）では、新交通・モノレールの事例調査及び各事例毎に各種基準の比較研究を行った。次の3年目（昭和62年）には、新しく提案された新交通システム土木構造物指針（案）によって、代表的な鋼橋を想定し試設計を行った。この試設計は会員の方々にとって一つの参考例となれば幸いである。

この3ケ年の活動で、新交通・モノレールに関する研究は終了する事とし、最終年度の昭和63年度は、特殊橋分科会の性格を前提として新たにテーマを検討した。その結果、今後の都市再開発、空間高度利用が進む状況で、需要が増加すると予測される「人工地盤」と、近い将来、都市間高速交通機関として計画されている「リニアモーターカー（浮上式）」のガイドウェイ構造物の2テーマについて調査する事とした。

人工地盤については、関連する資料も少なく、しかも国内では大規模な実施例も少ないため、十分な調査成果が上がらなかったが今後、本テーマを研究する会員の方々への初期の参考資料になり得るものと思う。

リニアモーターカーのガイドウェイ構造物の研究については、JR方式に絞り鉄道技術研究所の技術資料を中心にして一通りまとめる事ができた。

過去4ケ年間の活動を振り返ってみると、分科会発足の頃は景気は低調で建設業界も構造不況の中にあり、当分科会も鋼橋の需要拡大のための研究をスタートしたわけである。その後、一気に景気は回復し業界は繁忙の時期を迎えた。こうした中であって会員の方々においては本業を抱えながらも当研究会のために貴重な時間を割いて戴き、当分科会の成果はそれなりに仕上がったと評価できる。

最後に、過去4ケ年、当分科会の幹事をお願いした柳本氏（住友金属）、名取氏（三井造船）、井澤氏（川崎重工）、鳥羽氏（宮地鐵工所）の方々をはじめ、会員皆様のご尽力に深く感謝いたします。

（分科会長、友末 記）